ただの誤解です

まぐまぐ殿堂入り・日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」第2289号（2010年2月3日発行）より

このメッセージをお読みのほとんどのかたは、学校で、テストを受けた体験をもっていると思います。そして、そのテストは、ほとんどの場合、ひとつの問題にたいして、こたえはひとつでした。…よね？

１年間に受けるテストの数はどのくらいあったでしょう？　小学校時代には？　中学校時代には？　高校、大学時代には？　そう。私たちは、数えきれないくらい、テストを受けるという体験をしているのです。

ひとのこころは、一回だけの体験にたいしては、なかなか反応しません（よほど強烈なものであれば別ですが）。たいていは、繰り返し、繰り返し体験してきたことを、こころのなかにしみこませていくのです。

では、過去をふり返ってみて、テストで、満点をとりつづけてきたひとは、どのくらいいますか？　満点をとるためには、つねに正解だけを選びつづける必要があります。これを達成するのは、並大抵のことではありません。そして、その正解は、あなたが考えた正解ではなく、出題者が考えた正解です。

この体験を積み重ねた結果、私たちは、いつのまにか誤解してしまうのです。人生においても、つねに正解を選ばなくてはならないと。そして、その正解は、自分が決めるものではなく、誰かが決めるものなのだと。

でもね。いまも書きましたが、これって、ただの誤解です。だって、人生の問題に、こたえがひとつ、なんてありえませんからね。だから、本当は、学校のテストのやりかたは、あまり参考にしないほうがいいのです。
長い人生においては、正解がひとつという考えのほうが、特殊なのです。しかも、その正解を、自分ではなく、ほかの誰かが決めるということのほうが、特殊なのです。

でね。それがわかったら、このことにも気がついてくださいね。正解を探しつづけるかぎり、まちがいもまた存在しつづけるのだということに。
正解を探すことをやめたら、まちがいはなくなるのです。すべてのことは、単なる「ケースバイケース」になっちゃうのです。

そして、もういっこ言っちゃいますよ。あなたが、正解だと思っているそのことさえも、長いスパンのなかでは、本当に正解かどうかはわからないのです。「人間万事塞翁が馬」のたとえを出すまでもなく、成功だと思ったことが、転落のはじまりだったり、どん底だと思ったことが、幸福のスタートだったり。それが絶対の正解であるかどうかなど、誰にもわからないのです。
誰にもわからないというのが、ある意味、本当の正解なのです。正解さがしをすること自体、意味がないってことなんです。

だとしたら、あとは楽しむだけなんですね。楽しいことがあるから、楽しむんじゃないんですよ。あなた自身が、出会うこと・もの・ひとのなかに、楽しさを、喜びを見いだしていくのです。

どうぞ、楽しいと感じる体験をたくさんしてください。あなたが思えば、どんな体験も、楽しみに変わります。
困ったこと、大変なことが起きたときには、「ひょえー。やばいよー。これって、いつ、どんなお楽しみになるんだああ」と、悲鳴をあげながら、楽しめばいいのです。

なんだか、それって、ジェットコースターに乗る楽しみに似てますね。（もっとも、私はジェットコースターは好きではありませんが）。（笑）

楽なことばかりとはかぎりませんが、少なくとも、そのとき、あなたは、自分で自分の人生のありかたを決める生きかたをしています。
それって、ひとの正解を探しつづける人生よりも、はるかに前向きでパワフルな生きかたですよ！　楽しくならないはずがないじゃありませんか♪

●日刊メールマガジン「今日のフォーカスチェンジ」（かめおかゆみこ編集・発行）は、2003年11月1日創刊。2009年4月、2000号達成。3秒で読める携帯版もあり。無料講読は「かめわざ快心塾」から♪

http://kamewaza.com/